可動式アクリルパーテーションを提供　～コロナ禍で必要とされるモノを～

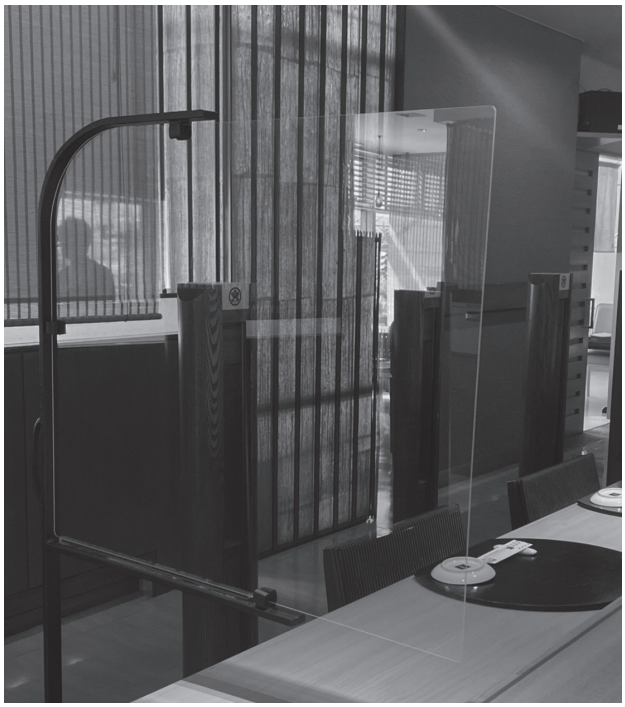
企業コード：060028513 ㈱大川鉄工所（小樽市）

1919年（大正8年）創業の**㈱大川鉄工所**（小樽市、代表取締役大川晃弘氏）は、Hグレードの建築鉄骨工事業者。地元業者を中心に道内大手の建設業者から受注を得て、公共施設から商業施設、ビル、工場・倉庫など鋼構造物の鉄骨工事を手がけている。

同社を率いるのが若くして4代目社長に就任した大川晃弘氏だ。「新型コロナウイルスの感染拡大防止のために何か社会の役に立てることはないか」（大川社長）と考え、製作したのが「可動式アクリルパーテーション」。地元の寿司店に提供したところ、お店からの評判は上々で、9月には同寿司店の別店舗にも新たに提供した。完成に至るまでには、どのような形にするのが良いかと、会議と改良を重ねてきたという。店舗内の雰囲気を損なわないようにと景観を考え、パーテーションの鉄骨断面は出来る限り細くした。キャスター付きになっており、来店客の人数や要望によって、パーテーションを自在かつラクに移動させることができる。飲食店舗によってカウンターの高さが異なるものだが、こうした点にも配慮し、パーテーションの高さも変えられるようにした。

この「可動式アクリルパーテーション」は、今年2月に設立した関係会社の**㈱大紘**が㈱大川鉄工所の色内工場内で製作にあたっている。㈱大川鉄工所が大型の鋼構造物を手がけるのに対し、㈱大紘は小型の鋼材製品を扱っている。「技術を伝承し、さらにこれを進歩させていくことを意識して取り組んでいます。今回製作したパーテーションも鉄骨の曲げ加工（カーブ箇所）などの技術を必要としました。エンドユーザーであるお客様が喜ぶ声をダイレクトに耳にし、社員がモノ作りの楽しさや醍醐味を改めて実感したことも大きな財産になると思います」と語る大川社長。今年6月には社内溶接競技会を初開催した。溶接技能者のほか設計部門や営業部門、外国人技能実習生などが参加、部署間に捉われず一体となって自社業務への理解を深めた。

モノ作り、そして社会貢献活動として意味あるモノを作る鉄工所でありたいと大川社長は考えており、パーテーションに限らずコロナ禍で“必要とされるモノ”を地元の病院にヒアリングも行っている。こうした活動を、今後は学校などさらに範囲を広げていく予定だ。



寿司店に提供されたパーテーション

キャスター付きのため移動も簡単

㈱大川鉄工所
〒047-0048　小樽市高島1-2-1
TEL：0134-22-6048
http://okawa-t.com/